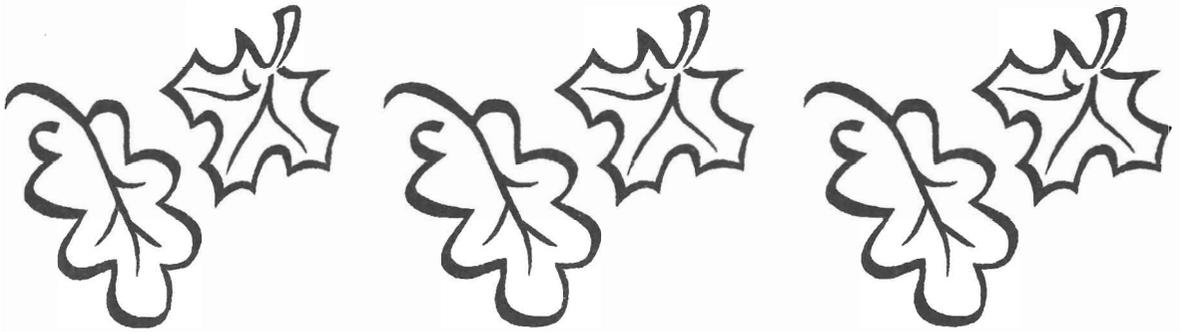

井戸端だより

第67号

発行日：2009年9月28日

発行：くらしの学習会



7月例会報告	1
9月例会報告	2
くすのきで風を感じる・・・	4
グリーンカーテン	5
夏の関西ぶらり旅	6
もう一度行ってみたソウル	11
雑感	15
愛媛新聞より～東温市議会～	18
お知らせ 編集後記	19



7月例会報告

7月8日12時30分から昼食持参で林さん宅にて7月例会を行いました。

お料理上手な会員の手作り弁当を前にいつも以上に話は弾みます。

今日の話は伊予銀行の助成金申請の件、前回話に出ていた自然観察会という企画は変更して、たとえば蝶カレンダーを作成し、現在脳梗塞で入院されている奥さまの看病でお忙しい楠先生に、それにコメントをつけていただけないか、一度おうかがいしてみるとということになりました。できそうならその線で申請し、無理ならもう少し長期的な計画のもとに、会独自の財源で進めていくということに決定しました。

その他 8月例会はお休み

9月は中島まで遠出 と決まりました。

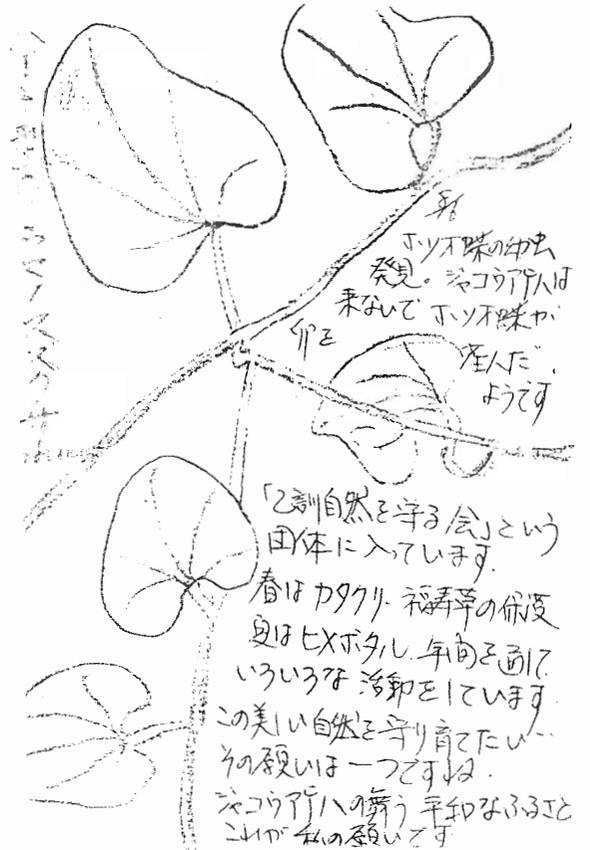
(S・K)

ジャコウアゲハの絵景書
を買って下さった方から
お便りを頂きました。

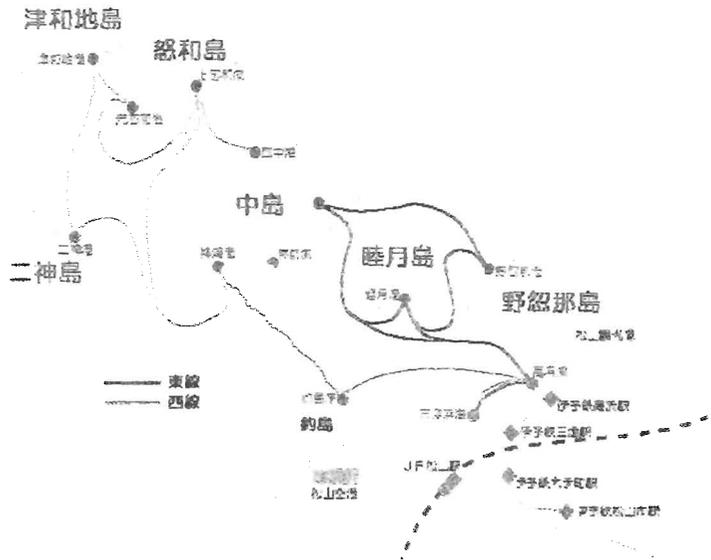
郵便はがき
7910204
愛媛県東温市
志津川1199-9
くらしの学習会 殿

東温市北野田のニミ
いまはジャコウアゲハの絵景
頂いてとてもお役に
立てました。
私もやまとうみすずさを
育てています。高尾道路建設の
ため、小泉川堤がなくなり、
3つの自生地がなくなり、
植えかえたのです。*草刈り
毎朝5時から世話をしています。

富山県長門郡
奥津町大字
長門郡下田
6/17/085



みかんと太陽とトライアスロンの島



東温市民には、中島は合併前、お隣さんの気持ちが強い町でしたが、今は、松山市の町です。例えてみれば、遠くに引っ越した親戚を訪ねるような気持ちでの中島上陸になりました。

「Oさんからのお便りで、皆さんの事を知っているので、初めてあったような気がしません。」という言葉でYさんに迎えていただいて、早速、4月に開校した3つの小学校が合併した中島小学校へ向かいました。ご丁寧に、校長先生が校舎の説明をして下さいました。これからの小学生のために建てられた建物は、実に豪華な立派な学校でした。中でも、体育館の下に作られた雨水枡でトイレなどの水を賄う設備は、地下の水の残量が子供達の目にもみえる仕組みになっています。又、玄関前に造られた水槽には、廃校になった小学校から持ち寄ったメダカが泳いでいました。

小学校を後にして、御衣黄桜の木を訪ねました。この後、山の頂に上がり、伊予灘の海を見ました。この景色が最高で、沈む夕日を想像しました。穏やかな海と島と小さく見える船の風景は、まさに、絶景です。癒されるという言葉がぴったりの場所でした。

昼食はプライベートビーチがあるあまの浜。すぐそこに、海を見ながら、日常を忘れさせてくれた時間になりました。Yさんのご親戚だと聞きました。ありがとうございました。

昼食後、Yさんのかつての勤務校、廃校になった天谷小学校へ行きました。くすの木が大きく、どっしりと、出迎えてくれました。子供達や先生達も登っていたくすの木です。つい4月までは、少数ながら、子供達の声が響いていたろう天谷小学校ですが、運動場に雑草が生え、寂しい様子でした。

ですが、中島町はトリアスロンで代表されるように、地元が持つ底力が現存する島だということも事実です。

松山からフェリーで1時間です。次回は桜の季節に行きたいですね。

Yさん 本当にお世話になりましたおかげさまで短い滞在時間を実に有効に過ごせました。感謝です。

9月3日午前 8時30分 Hさん宅 出発
10時10分 三津港からフェリーに乗船
11時30分 大浦港着
中島小学校（めだかと雨水桟）
熊田 御衣黄桜の木
昼食（あまやの浜）
天谷小学校（めだかとくすの木）
午後 2時10分 大浦港 フェリー乗船
3時32分 三津港着
4時30分 帰宅

*Yさんと校長先生に井戸端だより50号と蝶のくる庭の本と
三ヶ村泉と蝶の絵景書を後日郵送いたしました

(M T)

くすのきで風を感じる・・・

天谷小といえなくすのき。威風堂々、まさに天谷のシンボルでしょう。

2人の子供が天谷小に通った間、学校を訪れる度に、くすのきに優しく包み込まれ穏やかな気持ちになったように思います。

5月から講師として天谷小に通うようになった私をまず迎えてくれたのがその“くすのき”でした。「おばちゃん先生、がんばれ！」と言ってくれたみたいでした。

天谷小で仕事をさせてもらった2ヵ月半の中で、たくさんの思い出がありますが、中でもくすのきにまつわるシーンが思い浮かびます。

ある昼休み。校庭でワーワー、にぎやかな声がします。何だろうと出てみると、くすのきの所に先生や子どもたちがたくさんいます。木に登っている子、先生にお尻を押してもらってまさに登ろうとしている子、登ろうかなと迷っている子、下から楽しそうに見ている子、それを温かく見守る校長先生。一度に10人位登っていたのでしょうか。押し合いへし合い足を置く位置を考えて、うまくバランスをとっています。

木から降りる時もまたワーワー。勇気を出して飛び降りる子、先生に手伝ってもらう子、まだ降りたくない子、降りたかと思うとすぐ登る子。

先生方も子供たちといっしょに挑戦しています。ほとんどの先生が登ったのでしょうか。私？もちろん見学です・・・。

児童と先生と一緒に校庭の大きな木に登るなんて、天谷小ならではの体験だと思います。まるで母のふところのようにみんなをつつみ込むくすのきがますます好きになりました。

天谷小での3校集合学習の時、他校の児童にも天谷小の良い所を感じて欲しいなと思い、校庭のくすのきの写真を撮り教材に使いました。

「木に登ったらどんな気持ちかな？何が聞こえるかな？」この問いかけにいろいろな言葉が出てきました。その中で、ある天谷小の子どもの言葉に、はっとしました。

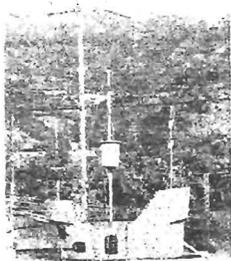
『かぜがうごく』

そうか、木の上では“風を感じる”のか・・・。まさに体験が感性を育て、すてきな言葉になったのです。

こんなすばらしい環境の天谷小が閉校になるのはもったいなく、寂しいですが、くすのきはいつでもみんなを温かく迎えてくれ優しい風をおくってくれるでしょう。私もいつかくすのきに登って（無理？）風を感じてみたいなあ。

くすのきと一緒に、私からもみんなにエールを送ります。

『天谷っ子、がんばれ！！』



0さんのメル友で今回の中島見学で島内を案内して下さった k.yさんが原稿を寄せて下さいました。この文章には前があって、その日の朝の読み聞かせて一人の少年がどんどんどん木に登っていつ色んな体験をするお話を聞いた子供たちの昼休みの遊びがくすのきだったそうです。

グリーンカーテン

20年位前から、地球温暖化や空気汚染に関心を持ち、自分なりによいと思うことを試みている。今年からテレビや新聞で話題になっているグリーンカーテンを実施している。

JAグリーンで売っていたゴウヤを2本買いポットに植えた。朝に夕に水をやり液肥を時々与えていると、伸びる伸びる南の窓の網戸に正にカーテンとなった。蔓が手を伸ばし自分の掴まる場所を探して広がっていく姿に植物の生きる力に驚いている。黄色い小さな花が、蝶が止まっている様にいっぱい咲いている。その中に2センチ位のゴウヤの赤ちゃんを見つけると、次の日からは、一日一日と大きくなる。実を眺めたりさわったりと、グリーンカーテンのおまけを探しては一人喜んでいる。

今迄に6本は20センチ程になったので、穫って妹にあげて料理に使ってもらった。まだまだ10本程は収穫出来そうだ。残念ながら我が家は夫が透析患者なので使えない。

目標にしているグリーンカーテンの効果は素晴らしい力を発揮している。朝6時頃に窓を開け、朝の空気を入れると、ゴウヤの香りと一緒に涼しい風が入って来る。東も北も窓を開けると部屋の温度は28度となる。8時位に南から入る風に扇風機を付けると29度位で11時位迄、クーラーなしで生活できる。

11時半にはクーラーに切り替えるが、5時間は電気代の節約となっている。7月8月と昨年の電気代と比べてみないと分からないが5,000円は安くなっていると思う。

一人のエコ生活で今の地球温暖化に協力しているとは言えないが、一人から始める事で大きい力になるのではなかろうか。サミットで提案した今より80パーセントCO2を減らすという事は大変なことだと思うが地球破壊を止めないと生きていけない。

風力発電、太陽光発電、水素電気といろいろ進んでいるが、お金がない者はお金の掛からない方法で工夫して小さい力でも温暖化を防ぐ生活をしていきたいと考え実践している。

(Sa・K)

夏の関西ぶらり旅

8月初旬、夫と二人、9/27まで京都市美術館で開催中の『ルーブル美術館展』を第一目的とし、以前から訪れてみたかった『大山崎山荘美術館』を予定に入れ、後はいくつか神社仏閣を時間の調整をしながら拝観し、神戸も少し楽しもうと暑さを考えながら予定を立て、10年振りに一泊で関西へ出かけました。

往路は朝一番から動けるように初めて高速バスを利用。「大洲花火大会」の渋滞に巻き込まれ松山駅45分遅れで出発。観光バスよりはゆったりでしたが8時間座りっ放しは正直きつかった。幸い後ろ座席が空きだったので遠慮せずシートを動かせたけれど、長身の夫は私よりもきつかった事でしょう。京都駅に降立った時の解放感は格別でした。荷物をコインロッカーへ入れ簡単な朝食を駅ビル内で取り、9時から開館の京都市美術館へ早めにタクシーで出発。鴨川沿いのサルスベリの花が睡眠不足の目を楽しませてくれ、おしゃべりな運転手の京都弁で観光モードに切り替わりました。

開館20分前にも関わらず50人程度の人が並んでいました。テントが張ってあり木々を渡ってくる風で気持ち良く待つことができました。『ルーブル美術館展-17世紀ヨーロッパ絵画-フェルメール<レースを編む女>をはじめルーブル至高のコレクション71点が集結』当時のヨーロッパの姿を「歴史の視点から浮き上がらせようとする試みで、レンブラント、フェルメール、ベラスケス、プッサン、ルーベンス、ラ・トゥール…時代を彩ったキラ星のごとき画家たちの作品を楽しみました。300年以上前に描かれ長く人々を楽しませて来た作品はとても美しくクリアに見えます。飾りばなしにせず管理がしっかり施されているのだと感じました。ルーブル至高の絵画をゆったり観賞しながら歩く床のきしむ音が、さすが昭和8年全国で2番目に建てられた公立の美術館らしさを醸し出しています（今思うと中学の修学旅行で『ツタンカーメン黄金のマスク』を見たのもこの美術館かも、平安神宮の側だったような記憶が蘇ります）美術展を訪れる度に思うのですが、私は目が悪いので眼鏡のレンズを通し絵画を見ていますが、レンズなしではどの様に見えるのだろうか。

京都市美術館を後に真言宗総本山「東寺」へ。弘法大師生誕の地・大師修

行のために四国各地を遍歴した跡をたどった道として四国霊場八十八ヶ巡りの地に住む人間として、弘法大師（空海）の智が結集した寺は是非訪れてみたかった所でした。「東寺」の象徴として親しまれている五重塔・金堂・講堂・大師堂・建物内に納められている数々の仏像いずれも国宝・重文と、とても素晴らしい至宝でした。「身は高野 心は東寺に おさめをおく 大師の誓い 新なりけり」平安京以来千二百年の間に幾度も台風、雷火兵火などの災害を受け、堂塔の大半を焼失したが、その都度、一般民衆の信仰の力により元の姿に戻された。今も毎月21日大師の命日に催される「弘法さん」は、境内に千軒以上の露店が並び20万人以上の人出でにぎわい、大師に寄せる民衆の信仰の深さを表しているといえましょう。季節を選び、再度拝観し「弘法さん」を楽しむのもいいですね。

「東寺」を後に京都駅へ。昼食を取り、JR奈良線で宇治「平等院」へ。十円玉の図案で知られる平等院（1052年）関白藤原頼道によって開創され、鳳凰堂（1053年）は阿弥陀如来を安置する阿弥陀堂として建設された。庭園は浄土式の借景庭園として史跡名勝庭園に指定されている。平等院に伝わる様々な宝物を保存、展示するための博物館である鳳翔館には、梵鐘・鳳凰一對・雲中供養菩薩像52体・デジタル技術を駆使した国宝検索システムなどが備えられている。特に11世紀の仏像群としては唯一残る『雲中供養菩薩像52体』は、いずれも雲に乗り様々な楽器を奏で舞うなど伸び伸びと繊細に彫り上げられ、優美さと可愛らしさを合わせ持った個性豊かな仏像でした。『国宝検索システム』による鳳凰堂色彩復元映像には朱色を中心に色彩豊かで、現在私たちが目にする十円玉のイメージとはかけ離れたものでした。暑さの中、「平等院」を見るだけの為に足を伸ばしてよかったと思いました。

宇治を後にJRで京都駅へ。駅ビル内のデパ地下で少しの食料を購入し、荷物を出し、宿泊先のホテルへ。駅ビル内の通路を通らず八条通りを西日を受け歩くこと10分。ホテル到着時には汗びっしょり、ロビーは結構混雑していたがフロント受付は手早く終え部屋へ案内されホッと一息。まずはお風呂。汗を流しすっきりすると、一日中、暑さの中動き回った疲れがドッと出て、もう食事に出ていく気分になれず、結局、デパ地下で買った食料とホテル内の自販機で買った飲み物で夕食を済ませ、早々にベッドに入り夢の中。

スッキリ目覚め、モーニングビュッフェでしっかり朝食を取り、チェックアウトをし、今度は駅ビル通路を通り京都駅へ。「アサヒビール大山崎山荘美術館」へ向かう為JR京都線で山崎駅へ。

<アサヒビール大山崎山荘美術館>

この美術館は、ニッカウキスキー設立にかかわった、大阪の実業家加賀正太郎が自ら設計し1912年から約20年かけ造られた山荘で、1954年主が亡くなり1967年には加賀家の所有から離れ、主を失った山荘は荒れ1989年取り壊しマンション建設の話が持ち上がるが、直後、地元を中心に保存運動が起こり1991年ニッカウキスキーを通じて加賀家と交流のあったアサヒビールが京都府と共同で山荘の買取りを決定。今、美術館は山荘の趣をそのまま生かした本館と1996年のオープンに合わせて建てられた安藤忠雄氏設計による新館「地中の宝石箱」からなる。「大山崎山荘」は日本における洋蘭栽培のメッカとして知られ、加賀が自ら過去約30年に渡る蘭栽培の集大成としてまとめ制作した『蘭花譜』（木版画83点・カラー図版14点・単色写真図版7点 私財を投じて300セット限定）をはじめ、柳宗悦や河合寛次郎ら大正末期に「民芸運動」を展開した作家の陶芸作品約千点・モネ『睡蓮』五点を含めた西洋絵画や彫刻などを所蔵、年間約十万人が訪れる観光名所と成長した。

山崎駅は伊予鉄横河原程度の小さな駅舎、タクシーも常駐していないので歩くか障害者や高齢者優先の送迎バスしか足がない。幸いにも送迎バスが置いていて乗せて頂けたのですが、山荘というだけあって結構勾配のきつい山道でバスのエンジン音が凄くて、この山道を荷物を持って登って来るのは大変だったと想像でき大変助かりました。バスを降り、古めかしいトンネルを抜け広葉樹の林を数分歩くと、しゃれた洋館の『アサヒビール大山崎山荘美術館』に到着。チューダー・ゴシックと呼ばれる英国の建築様式の美しい建物の入り口には、美術館であることを主張し過ぎない控え目な小さな「大山崎山荘」と書かれた木製の札が。小さな木製のドアを入るとシックで落ち着いた内装。受付で荷物を預かってもらい（リュック程度大の荷物なら入るロッカーは用意してある）「顔」をキーワードにした展覧会「かおかたち無限大」は、作品の中の数々の顔を探すうちに、ふと何でもない物にまで顔に見えてくる楽しい展示で素敵な内装と共に楽しみました。本館を後に半地下

ていくのだ。私が初めて彼らを教え始めたのは2002年だが、中には帰国後も連絡をとりつづけ、近況報告してくれる学生もいる。今回はそのうちの二人にソウルへ行く旨連絡した。そうしたら、それぞれの学年の元交換学生に連絡を回してくれて、結局2日に亘り彼らと会う機会を設けてくれた。それぞれの学年の学生が初対面ということもあるのに、私の教え子つながりで10名の元交換生がそれぞれの都合に合わせて2日に分かれ集まってくれた。本当にうれしかった。

1日目、事前のメールでどこに行きたいか聞かれ、みんなの大学へ行きたいと言ったら、一人が3時半にホテルまで迎えに来てくれて、あとの五人は大学で待機していてくれるという。迎えの時間まで一人で地下鉄を駆使して、世界遺産宗廟と昌徳宮などを見学し、2時ごろホテルに戻り、シャワーを浴びて着替えて学生を待つ。地下鉄で建国大学へ。建国大学は大きい大学で、地下鉄の駅もある。門がなく、歩いて行くとそのまま自然に構内に入って行く。学生から聞いていた大きな池は、市民が憩う絶好のスポットになっているようだ。畜産学部の有名な牛の像の前で写真をとってもらった。医学部病院は高くそびえたっている。法学部は蔦のからまる落ち着いた趣だ。学生寮は、小山の奥にある。時間的に遅くなってしまったので、建物の内部までは見せてもらうことはできなかったが、十分雰囲気を楽しむことができた。大学院に進んでいる人、休学してバイトをしている人、日本のあとアメリカにも留学した人などそれぞれのその後を聞くことができうれしかった。食べ物の希望を聞かれ、みんながよく食べるものが食べたいと言ったら、学生街の店に連れて行ってきて、かき氷入りの冷たい黒い（葛入りとか）冷麺、それに焼肉、豆腐入り餃子（かなり大きい）を頼んでくれた。例の地下鉄料金の謎を聞いてみた。何と例のカードは15歳から18歳用の学生カードだったのだ。コンビニの店員はなぜ何も言ってくれなかったのか……。それにしても世界中どこへ行っても日本語でコミュニケーションがとれる日本語教師は本当に幸せな職業だと改めて感じた。

2日目は、7年前に教えた学生たちが中心だった。そのうちの二人が、11時にホテルまで迎えに来てくれて、有名な景福宮行きにも付き合ってくれるという。二人とも会社員でどちらも日本の会社（東京エレクトロニクス、三菱）のソウル支社に勤めている。7年ぶりの再会だったが、変わっていなかった。景福宮まで地下鉄で行く。例のカードは事情を知ったのが2度目のチャージをした後だったので、どうしようかと思っただが、二人に大丈夫大丈夫と促されて使ってしまった。よく観察していると、大人用のカードは読み取り機にかざすと1回しかチンと鳴らないが、例のカードは2回鳴るのだ。しかし、あたりに駅員も誰もいないし、清算もできないので、仕方なく使うことになってしまった。見つかったら罰金ものだろう。懺悔。

景福宮は、衛兵交代にも、日本語ガイドのある時間帯にも間に合う時間に着いたので、ラッキーだった。日本語ガイドさんの話に耳を傾け、2時間くらいかけて広い敷地を歩いた。豊臣秀吉によって焼かれたとか、日本植民地時代に壊されたとか聞くと、日本人として本当に申し訳ないと思う。ここはこれからも復元工事が続くということだった。

仁寺洞では、まず遅い昼御飯を食べる。二人が連れて行ってきてくれたのは、韓定食が有名なレストランで趣のある建物だった。薄切り大根の酢漬けに10種の薬味を乗せて巻いて食べる食べ

もの、豆腐チゲ、焼肉、竹筒に入った棗入りもち米ごはんなどどれもおいしかった。二人は、まだ結婚していない。この学年は四人の交換生だったが、唯一の男性は、最近結婚して、今日は用があって来れないとのこと。今でも四人は時々会っているとのことだ。一緒に留学したという絆は強いらしい。一人から結婚についての相談を受けた。今付き合っている男性が、誘われると断れない性格で、毎晩遅くまでお酒を飲んで帰るらしい。性格はいいのだが、その点だけが気になって結婚に踏み切れないという。いい回答が出せるわけもなく、話を聞いてあげて、自分の体験談を話して・・・女三人のおしゃべりに花が咲いた。そのあと、ぶらぶら歩きをしてコーヒーショップで一休み。二人が大好きだというホイップクリームが上に山のようにのっているアイスコーヒーを運んできてくれた。二人は、昔うちに招待したときに食べたチーズケーキの味が忘れられないという。私がすべておごるつもりでいたのに、景福宮の入場料も昼食もこのコーヒーも、どんなに払うといってもお金を受け取ってもらえなかった。今度松山に行ったら、チーズケーキをまたごちそうしてくださいと言われた。そんなことならお安い御用だが、教え子におごってもらうとは…何だか申し訳ない気持ちでいっぱいだった。

二人はここで、夜の部の二人とバトンタッチ。一人は午前の二人と同じ学年で、彼女は交換留学後、再び松山に戻ってきて、松山大学の大学院を修了後2年前に帰国、韓国の大企業サムソンに就職した。もう一人は2年前の交換生で今建国大学の院生、ピアノが上手で、うちで弾いてくれたのを思い出す。三人で仁寺洞でのショッピングを楽しみ、晩御飯は最近はやりだという豚肉の焼肉を食べビールを飲み、暗くなったところで、タクシーでソウルタワーまで行った。ソウルタワーまでタクシーで乗りいられるのは、パスポートを持った人だけだということで、私のパスポートが役に立った。土曜日の夜とあって、人出がすごい。タワー頂上に登るエレベーターは、チケットの番号で呼び出されるまで1時間近く待たなければならなかった。南山の頂上にあるので、見晴らしがいい。ソウルの夜景は素晴らしかった。恋人同士で蝶番の鍵をかけると別れないというおまじないが流行ったとかですごい数の蝶番がところ構わずかけてあった。一時撤去するとい動きがあったらしいが、市民の反対で撤回されたとか。

タワーに上って見たソウルの街は圧巻だった。世界の主な街がそれぞれの方向に書いてあったので、東京の文字のあるところで写真を撮ってもらった。三人で撮った写真はいい思い出になる。もう会えないのかまた会えるのかわからないが、これからも連絡が続けていければいいなとつくづく思った。二人が今後どんな人生を歩んでいくのか、見守り続けていきたい。

充実したソウル滞在を終えて、23日松山に戻ってきた。帰りの飛行機は、一目目ホテルまで迎えに来てくれた学生が、日本人の彼氏に会うために松山に来ると一緒に、隣の席だったので、ずっと話しながら帰ってきた。日本は新型インフルエンザが流行っているの、韓国に帰ったら大学に出られるまでの自宅待機期間が決められているとのこと。それでも、彼に会いたくて、親の反対を押し切ってきたと言う。復学するつもりだったが、ワーキングホリデーの審査に合格したら、再び日本に戻ってきたいということだった。空港には長身でカッコいい彼が迎えに来ていた。彼女の真の幸せを祈らずにはいられなかった。(T・H)

眩しく輝く夏らしい空を見るのが少ないまま、秋空に鱗雲が浮かんでいます。

北海道の大雪山系旭岳では9月12日、平年より12日も早く初冠雪が観測され、ピークを迎えている紅葉と共に秋と冬が競演する風景が、訪れる観光客の目を楽しませているそうです。

那珂太郎氏の詩「音の歳時記」によると9月は「りりりり」。因みに、1月「しいん」、2月「びしり」、3月「たふたふ」、4月「ひらひら」、5月「さわさわ」、6月「しとしと」、7月「ぎよぎよ」、8月「かなかな」、10月「かさこそ」、11月「さくさく」、12月「しんしん」(2009.9.5.朝日新聞 天声人語)。目で、耳で、愛でる日本の四季。大切にしたいと思います。

7月2日、天野之弥ウィーン国際機関政府代表部大使が国際原子力機関(IAEA)の次期事務局長に選出され12月から「核の番人」をつとめることになりました。

唯一の核被爆国であり、非核三原則を謳い、嘗ての総理がノーベル平和賞を受賞した日本の代表がどのように手腕を振るうのかヒロシマ出身の私には大いに興味が有り、期待したいところです。しかしきれいごとを並べつつアメリカの核の傘に守られ続け、その為の様々な密約を続けてきたと言われる日本の立場は微妙だともいえます。

アメリカのオバマ大統領は4月、プラハで「アメリカは、核兵器を使ったことがある唯一の国として行動すべき道義的責任を持つ。核兵器のない世界の平和と安全保障を追求することを約束する」と演説しました。被爆から64回目の夏を迎えた広島、長崎では核廃絶への期待が高まっています。今までは敢えて広島で被爆したことを自分から語ることのなかったデザイナー三宅一生氏も7月14日ニューヨーク・タイムズ紙に「オバマ大統領が、広島を渡る時、それは核の脅威のない世界への、現実的でシンボリックな第一歩となることでしょう。そこから踏み出されるすべての歩みが、世界平和への着実な一歩となっていくと信じています。」と締めくくる一文を寄稿しています。オバマ大統領の演説については憶測も含めて様々に評されていますが、20年以上前、コロンビア大学の学生だった21歳のオバマ氏が既に「核攻撃に対してそれ以上の核能力を持つことが相手に攻撃を思いとどまらせるというゆがんだ論理こそ、巨大軍事企業を利してきた」という、核なき世界を志向する評論を学内誌に書き、今年7月の米ロ首脳会談で、アメリカが東欧に配備する予定のミサイル防衛(MD)システムについての対立点を残しつつも軍縮を合意、遂に9月には懸案の東欧MD配備計画の中止を正式に発表するなどの行動を見て、彼の言葉を信じたいと思っています。昨年のノーベル物理学賞を受賞した益川敏英先生の「人間は間違いもおかすけれど、100年位の長さで見ると良い方向に進んでいると思いたい」との発言を思い出しています。

友人の勧めで、坊ちゃん劇場で上演中の“鶴姫伝説”を観ました。大三島に伝わる伝説を基にしたミュージカルでしたが、「戦によっては真の平和は得られない」という一貫したメッセージと舞台を作り上げている一人一人の清々しい情熱が伝わってくる素晴らしい空間でした。「命はいつ尽きるかもしれない、大切な人には今こそ素直な想いを伝えよう」と語る乳母の娘カモメ。“嘘つきアーニャの真赤な真実”(米原万里著)を読み終えたばかりで、前日、大切な友人が一ヶ月前に亡くな

ったという知らせをもらったばかりの私は涙を止めることが出来ませんでした。“九条の会”の世話人の一人でもある益川先生の「九条が真に危うい状態になった時には私は研究者をやめて九条を守る行動に専念する」との言葉をかみしめながらの観劇でした。

かつて東ティモールやシエラレオネの国連 PKO で紛争処理や武装解除を担当しアフガニスタンで日本政府特別顧問として武装解除を指揮した伊勢崎賢治氏は、「ソマリア沖への自衛隊派遣は『戦後最大の違憲派兵』であるにも関わらず、ろくな反対運動もおきない今の日本人には憲法九条はもったいない」と指摘します(2009.5.2.朝日新聞)。「一部の護憲派は『一国平和主義ではいけない』とする憲法前文を忘れているとしか思えない」ことに憤慨し、「九条のもとで自衛隊が出来る活動は沢山有る。前文と九条の間に隙間を見つけ、そこを突いて対テロ戦に持ち込んだ総理もいたが、我々は前文と九条をつなぐ努力をしなければならない。大事にしたい。」と語っています。平和から遠い土地で、軍や、武装集団を前に命をさらして活動した人の重い言葉だと思います。日本国憲法の前文を読み返してみました。人として、国家として、あるべき理想が見事に書きつくされています。この様な憲法を持つことに誇りを持ち、守っていきたくて改めて強く感じています。

NHK アーカイブスで“言葉を覚えたチンパンジー アイちゃんの子育て日記”の再放送を観ました。アイは愛知県犬山市の京都大学霊長類研究所にいる天才チンパンジー。アキラとの間に産まれたアユム。アイは怒らない。指導しない。アユムの好きなようにさせ、アユムに合わせ自分のやり方を変えていく。一見、放任とも甘やかしとも見える子育てです。しかしアユムはアイの“背中”を見て逞しく育ちアイを超えていきます。私は子供を怒ってばかりいました。先回りして自分に都合の良い指導をすることに必死でした。チンパンジーは出産後5~6年は次の子供を作らず親しい者にも我子に触れさせずひたすら子育てに専念し、子供が自立出来てから次子を出産するといえます。チンパンジーにも人間同様“新生児微笑”が見られるそうです。この微笑により母親は子供への愛を深め、母親も微笑む。その繰り返しから子どもは豊かな感情とそれに伴う表情を身に着け、社会に適応していき、母親も“真の母親”として成長していくのだといえます。我が家の娘たちが生まれたばかり頃、眠っている娘たちが時折微笑むのを見て「産土神様の贈り物」と言っていた母の言葉を思い出します。

確かな親子関係を構築するのに十分な時間を持つことが出来る様な子育て支援を政治に望みたいと思います。女性の社会参加は大切なことです。託児施設の増設や、支援金の給付だけではなく、長期の育児休暇がとれること、その後容易に職場復帰できる環境創りこそを願います。どんな時でも自分を愛し、守り、認めてくれる人が居るといふ安心感と自信を持った子供達。そんな子供達は長じた時「誰でもいい」という哀しい事件はおこさないに違いないと思うからです。

“外食”と称しての我が家の大型犬、大五郎の躰のやり直しの為のハイキングに加えて、30年振りにキャンプを始めました。山間のキャンプ場を利用した一回目は雨に祟られましたが、30年前のテントをはじめとする道具の全てが現役だったこと、大五郎の想像以上の順応振りに感動しました。二回目は海辺。午前2時半、ふと目覚めるとテントを覆い尽くすような曇空。手を伸ばせば届きそう

な近さです。東の低空に大きく輝くオリオン座。9月にオリオン座が見えることに驚き、キツネにつままれたような気持ちでしたが、帰宅後調べると、夏でも夜明け前の少しの間は見えるのだとか。偶然にもそんな貴重な時を目撃できた幸せに感謝です。5時前、まだ暗い空の水平線が薄紅く染まった頃、新月直前の細い鎌のような月と明けの明星が東の上空に。少しずつ赤みを増す空。黒い影で浮かび上がっていた景色が少しずつ本来の色を取り戻し始めた頃、近くの林から甲高い鳴き声が出たと思うと一斉に鳥の群れが飛び立ちます。水平線からの日の出。感動と感激の連続でした。屋外で終日過ごす今まで見ていなかった様々なものに出会えることに改めて驚いています。山道では所々ハゼが赤く色付き秋の装いを始めています。遅まきながら訪れた私にとっての“センス・オブ・ワンダー”です。レイチェル・カーソンのこの本を教えてくれた友人に感謝です。“蝶のくる庭”と共に今の私にとって手放せない本になりました。今回のキャンプ旅行で出会った蝶は、モンキアゲハ、ナミアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、ナガサキアゲハ、等々。もっと沢山の蝶に出会ったかもしれません。二回のキャンプで現役と思われていたテントも少しずつ綻びが見えるようになりました。私達同様、老化が進んでいるようです。私達も、以前出来たこと、昨日出来たことが今日も出来ると過信しないで、無理のない範囲で感動を味わいたいと思っています。

自宅の周りも出会いがいっぱいです。

立秋の朝、雨上がりの空に大きな虹が架かっていました。

46年振りの皆既日食も曇天の中、お隣の塀に寄り掛かりながら一時間、デジカメのディスプレイに映る変化に目を凝らしました。鳥達が夕暮れと間違えて右往左往しているのが可哀そうでした。

このところ、薄い雲が広がる日が多いため、毎日のように大きくて真っ赤なサクラソウの様な夕陽を楽しんでいます。

今年は畦道に咲くオトギリソウの仲間がいつもより多い様な気がしています。

友人の勧めで“「千年の森に集う」全国大会 in 石鎚”で山折先生のお話を聞くことができました。「お伽噺まで明治政府の富国強兵政策に合わせて内容が変わってしまった。CO₂の排出権取引やカーボンオフセットは“ベニスの商人”的なものの見方に他ならない。農地同様、森も人の手が入らず放棄されている。間伐材で火葬したらどうだろう。」と、引き込まれました。火葬の話は先生がお住まいの京都では反対する人が多いそうです。私自身は重油でゴミの様に焼却されるより私達と共に生きてきた薪で焼いて灰は木々の根元に撒いて欲しいと思います。

私達にとって何よりも大切な水。その水を産み出す森。その森が荒廃すれば人間を含む動植物総ての命そのものが危くなることをもっと真剣に考えるべき時です。快適、便利な生活はそのままに環境に優しいというエコ商品も完全なものは皆無とすら思えます。“二兎を追うもの一兎をも得ず”となる前に、便利さ、快適さを追求することから卒業し、不便を甘受する覚悟が必要な時だと思えてなりません。残念ながら迷っている時間はあまり残されていないのかもしれませんが。

本格的な政権交代が初めて成されました。暫く見守りたいと思っています。(K.O.)

市議会

中央公民館
11年耐震化

理事者

△東温市▽(16日・定例)大西佳子、相原真知子、玉乃井進、伊藤隆志、渡部伸二、片山益男(以上無所属)の6氏が一般質問。大西、伊藤両氏は災害対策の現状をたずねた。理事者は、JAやスーパ―など9団体と災害時の応援協定を締結、物資の備蓄状況は乾パン1838食分、

毛布365枚、マスク4千個などと説明。避難施設の耐震化について、改修が必要

な市中央公民館(田窪)と川内体育センター(北方)は2011年に改修予定、地元が管理する土谷公民館(河之内)については「住民の意向を聞き対応する」と答えた。

相原、玉乃井両氏は新型インフルエンザ対策を質問。理事者は、専門医師らの監修を受け市民向けパンフレットを作成中で、早期に全戸に配る予定とした。

経済危機対策の実行を国に求める意見書案を委員会に付託した。

一般補正など
5議案を可決

△東温市▽(25日・定例最終)一般会計補正予算算3億9541万円(累計123億9149万円、前年度同期比6・9%増)など5議案を原案可決。公費

による細菌性髄膜炎ワクチンの定期接種を求める意見書提出の請願

1件を継続審査とした。

経済危機対策の着実な実行を国などに求める意見書提出について、渡部伸二(無所属)佐伯強(共産)の両氏が反対討論。「国民や地方の声を反映し(予算を)見直して精査した上で実施すべきだ」などと述べた。

佐伯正夫、細川秀明(以上無所属)の両氏は賛成の立場から「進行、着手している予算もあり、一部凍結は地域経済や住民生活に直接影響がある」と訴え、賛成多数で可決した。

また、任期満了に伴う教育委員に平野仁弘氏(65)と田窪IIを再任する意向に同意した。

10月例会のお知らせ

10月6日(火) 午前10時 林さん宅にて

くらしの学習会では、随時会員を募集しています。

活動会員 2,000円/年 購読会員 1,000円/年
振込先口座番号(郵便局) くらしの学習会 01610-5-21026

問合せ先 TEL/FAX 089-964-6956

E-mail: kt-hayashi@nifty.com

編集後記

蒸し暑かった夏が終わり鈴虫の鳴き声が心地いい季節になりました。

8月の暑い中、Mさん、Hさん、Oさんは夫々の形での旅で感動された様ですね。

私もシルバーウィーク期間中に東京から海ほたるを通り千葉の勝浦のホテル三日月で1億2千万円の黄金風呂に入ってきました。さてどんなご利益があるのやら……。ホテルも満室。千葉の太平洋側の海岸はサーファー族で、また銀座の歌舞伎座建てかえのため、さよなら公演も、そして秋葉原も大変な賑わいでした。

その一方、上野駅・上野公園では多くの段ボール族を見ました。民主党政権下では、この人達に少しでも生活が成り立つ様に何らかの措置をしてあげてほしいものです。

日本を始め今世界が大きく変化しているのを感じます。鳩山総理は、温室効果ガスを2020年までに1990年比25%削減を国連総会の演説で世界中に約束しました。さしずめ私は、15年余り続けているごみを減らすこと、身近な所から環境問題に関心を持ち続けること、これくらいなら出来るかな？

7月例会で話し合った伊予銀行の助成金を受けて自然観察会をとの話は楠先生の都合がつかず残念ながら見送ることになりました。(S・K)